

高校同窓生登山旅行 余話

美味しかった四万十の恵み

前号でホテル星羅四万十の食事が美味しかったこと、四万十川の幸が食材に使われていた事を書き、鰻専門店での川えびの唐揚げについて少し触れた。このえびの唐揚げはホテルでも前菜として出されていたが、同じく前菜としてごりの唐揚げも小皿に載っていた。

ごりと言えば、石川県金沢の「ゴリの佃煮」を食べた事があるが、同じゴリでも北陸ではカジカの仲間を指し、四万十川ではハゼ科のチチブのことをそう呼ぶそう。金沢の佃煮の味は忘れたが、四万十の唐揚げはカリカリッとした歯ざわりと淡泊な味で食欲をそそった。

ところで琵琶湖周辺でゴリと言えばハゼ科のヨシノボリの別称だそうだが、どこのゴリも川底に貼りつくように生活し、それを獲る漁法が川底の小石もろとも強引に網に追い込むやり方で、ここから「ごり押し」の語源になったと言う。

少し横道に逸れたが、土佐酢で食べる天然青さのり、天然鮎の塩焼き、青さのりの天婦羅、鰻のじょうじょう揚げ、そして地元の山間米といずれも絶品。四万十の名産をたっぷりご馳走になったのだった。



ナギナタコウジュ（剣山）



シラヒゲソウ（石鎚山）

武奈ヶ岳山頂から琵琶湖を眺める 10月10日



10月10日オオヤマレンゲ山の会の例会登山で滋賀県の武奈ヶ岳（1214m・比良山系）に登った。

栗、どんぐりなど木の実がたくさん落ちており、紅葉も始まっていたが、圧巻は山頂からの琵琶湖遠望。（写真は松下義一氏写す）

二上山だより



写真上 **アケビの実** 松下義一さん写す

可愛いセンブリをとらないで

登山道の傍らでセンブリが白い花を咲かせています。リンドウ科センブリ属のこの植物は胃の薬として有名ですが、千回振り出してもまだ苦いと言う意味でこの名がつけました。

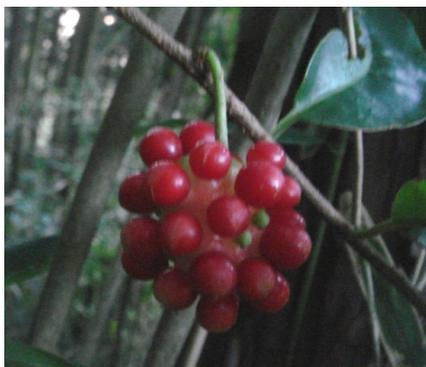
今年一つの株が根こそぎなくなりました。皆で大切に、大切に。

ため池の堤防にツリガネニンジン

岩屋峠近くに咲いていたのは株ごとなくなりましたが、麓・葛城市のため池のほとりに咲き残っていました。

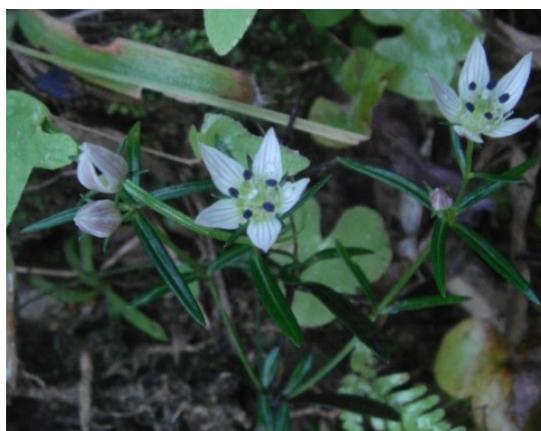
真っ赤なサネカスラの実

モクレン科の別名 **ビナンカズラ** の実 (写真下) が林の中で熟れています。



祐泉寺から馬の背への道の途中にあるイチョウの大木が、万を超える銀杏の実を散らし終え、今その姿全体を秋の色に染め始めています。

深い緑陰を作って登山者に涼を提供してきた巨樹は、これからは陽光を乱反射させて、周囲の情景をやわらげ、晩秋、あの光沢を放つ黄金色の葉っぱを幾重にも散り敷いて、そこに靴を下ろすのをためらわせるのです。



写真上 **センブリ**



写真上 **ツリガネニンジン**

以上 105 号